

令和元年 8 月 13 日

議長 梅村 均 殿

岩倉市議会 宮川 隆

全国地方議会サミット（報告）

このことについて、下記のとおり実施しましたので報告いたします。

記

1 実施日 令和元年 8 月 1 日（木）～8 月 2 日（金）

2 日 程 別紙

3 出席人数及び氏名

		宮川 隆
--	--	------

4 復命事項

別紙のとおり

日 時 令和元年 8 月 1 日 (木) 13 時～ 8 月 2 日(金)17 時 30 分

場 所 東京ビッグサイト 7 階国際会議場

主催団体 ローカルマニフェスト推進連盟
マニフェスト大賞実行委員会
早稲田大学マニフェスト研究所 (共催)

テ ー マ 「チーム議会が地域をより良くする」

会議日程 別紙

内容報告

【基調講演】 13:00～

「なぜ今 “チーム議会” が必要なのか」

早稲田大学名誉教授

元三重県知事 北川 正恭 氏

1995 年から始まった「地方分権」は、定員・歳費・政務活動費の削減と云う物的改革から「地方創生」の主役であるための質的改革が求められている。

まだまだ中央集権体制から脱却できていない執行機関に対して、住民の代表機関である議会として地方を変えることから、国を変えてゆくためには「チーム議会」の取り組みが大切である。

【パネルディスカッション】 13:20～

「NHK 地方議会 2 万人アンケートのホンネ」

山梨学院大学教授 江藤 俊昭 氏

NHK 報道局選挙プロジェクト副部長 杉田 淳 氏

NHK 報道局選挙プロジェクト記者 久保 隆 氏

昨年 3 万 2450 人の全地方議員に対して NHK が行った 126 項目のアンケート調査 (回答率 59.6%) を基に作成された「NHK スペシャル・崖っぷち!? ～わが町の議会」で浮き彫りになった地方議会の現状・各議員の意識の在りようなどそれぞれの議会が抱える問題を問題定義いただいた。

【パネルディスカッション】 14:20～

「チーム議会に職員だからできること」

滋賀県大津市議会局次長 清水 克士 氏
岩手県北上市議会事務局議事課長 小原 昌江 氏
茨城県取手市議会事務局次長 岩崎 弘宣 氏
東京都羽村市議会事務局長 小林 宏子 氏

議会事務に留まらず、職員自ら議会が政策提案を行えるように積極的に取り組む先進議会局・議会事務局の担当者を通じて、チームの一員としての職員のモチベーションを維持してもらうための体制づくりや議員の働きかけ方を明示していただいた。

【先進事例紹介】 15：45～

「AI・ICTで議会の未来を切り拓く-1」

株式会社メディアドゥ SMART 書記事業部長 松田 崇義 氏

グローバル化が進展する社会環境の中にあって、ビジネス書の翻訳や音声認識ソフトを通じて、首長の記者会見をリアルタイムに要約議事録作成を行うことで、時間的経費の削減と余った時間を政策策定業務につぎ込むなど密度の高い業務実現のメリットを提案していただいた。(平均月額 10 万円)

【講演】 16：20～

「チーム議会の視点から見る議会・議員の役割」

早稲田大学教授

元総務大臣 片山 善博 氏

「チーム議会」とは何か？

- ・球技大会のように力を合わせて勝利（市政発展）を目指す。
- ・取締役会のように複数意見を取り入れることでぶれない政策が形成される。
- ・議会が「決める」事は市民生活に制約をかけ、義務（税）を科すことである。そのためにも幅広い意見が反映されるべきである。
- ・議会は裁判所と同じで片方の意見説明を鵜呑みしては、正しいジャッジはできない。

飯綱町の寺島議長の言葉を借りるならば、「議員の意見は空気銃・議会の意見はバズーカ砲のようなものだ。」複数眼による監視機能・首長への政策提言・市民

住民本位の議案修正など「チーム議会」に期待は大きい。

【総括】 17：20～

早稲田大学名誉教授 北川 正恭 氏

2日目

【先進事例報告】 9：30～

「チーム議会の実践と課題」

月刊ガバナンス編集長 千葉 茂明 氏
北海道芽室町 議長 早苗 豊 氏
三重県四日市市 議長 諸岡 覚 氏
愛知県岩倉市 議長 梅村 均 氏

先進自治体の取り組みを通じて、それぞれの議会が足らざるもの・目指すものを発見するいい機会であった。

【パネルディスカッション】 10：30～

「チーム議会の視点から首長との関係を考える」

早稲田大学名誉教授 北川 正恭 氏
滋賀県湖南市長 谷畑 英吾 氏
兵庫県川西市市長 越田 謙治郎 氏
京都府京田辺市長 上村 崇 氏

以前議員で会った首長を含め、首長の立場から見た「議会に望むもの」とは何か？役割とは何かを示唆いただいた。（意識が高い首長は決して議会は寝ていれば良いとは思っていない。）

【先進事例報告】 12：20～

早稲田大学マニフェスト研究所事務局長 中村 健 氏
(公明党岡山市議団)
則武 宣弘 氏
中原 淑子 氏
林 敏宏 氏

政策集団としての会派の役割と持続的な政策形成サイクルの作成に向かた取組が紹介された。

【先進事例報告-2】 13 : 00～

「AI・ICT で議会の未来を切り拓く-2」

東京インタープレイ(株)代表取締役 米田 英輝 氏

多くの自治体で導入されつつあるタブレットを通じた議会の AI 化・ICT 化の可能性を最新情報の紹介と共に今後の可能性について提案された。

【パネルディスカッション】 13 : 40～

青森中央学院大学准教授 佐藤 淳 氏
長野県飯綱町議会議員・元飯綱町議会政策サポーター 瀧野 良枝 氏
愛知県新城市議会議員・元新城市若者議会議長 竹下 修平 氏
静岡県牧之原市 市民ファシリテーター 原口 佐知子 氏
岐阜県可児市議会高校生議会・立命館大学 3 年 田口 裕斗 氏

若者の視点から見た議会に望むものと若者の政策形成参加を促すすべをそれぞれの自治体にかかわった立場から提案頂いた。

【パネルディスカッション】 14 : 45～

自由民主党衆議院議員 元地方創生担当大臣 石破 茂 氏
公明党衆議院議員 党地方議会局長 稲津 久 氏
立憲民主党衆議院議員 元ニセコ町長 逢坂 誠二 氏
法政大学教授 廣瀬 克哉 氏

一貫してパネラーが発言されていた点は、長く中央集権が行われてきたが、個々の自治体が個々の事情に合わせて政策実現を試みる時代に変化してきている。国は、それら地方の政策を支えて行くかを考えて行動すべきである。

【総括】 15 : 45～

早稲田大学名誉教授 北川 正恭 氏

中央集権時代からの脱却に目覚めた幾つかの自治体が、地域に根差した政策形成に挑戦し、実を結んでいる。「地方の時代」と云われて久しいが、まだまだ道半ばである。

今回多くの先進的な取り組みが発表されたが、自ら考えよう物は積極的に取り入れることで「善政競争」につながることを期待する。

《会を終えての考察》

おかげさまで、岩倉市議会は全国規模の学習会にパネラーとして招待いただける存在となり、全国から注目の的となっている。

しかしすべての議員が同じ目標をもって前進しているかは疑問が残る。それぞれの立場で、それぞれの意見を基に議論の場につくことが民主主義の原点であり「市民福祉の向上」を担う行政機関の一翼である議会の使命ともいえるのではないか。

「チーム議会」とは、議員間のなれ合いや貸し借りではなく、信じる意思に基づいて議論を重ね市民・住民にとっての最大公約数探し出す術ではないかと考えている。

以上